

国語

第6学年

育成を目指す資質・能力【表現力】【協調性・柔軟性】

単元名

おもしろい絵を見てくだ祭 ～絵の魅力について評論しよう～

教材文「『鳥獣戯画』を読む」

【単元の概要】

美術館からの展示している絵の評論文を書いてほしいという依頼をきっかけに、絵を見にきた人に興味をもってもらえる評論文を書きたいという意欲をもたせます。教材文の優れた叙述から、評論文の書きぶりを学ぶ中で、筆者の主張を伝えるための表現や構成の工夫などに気付かせ、読む力と書く力を複合的に育成していきます。

学習指導要領における領域・内容

B 書くこと ウ

C 読むこと ウ

他教科等との関連

図画工作、社会

◆単元の目標

評論文を書くという目的に応じて、教材文「『鳥獣戯画』を読む」から筆者が絵の何を取り上げ(事実)、どのような言葉で解説(感想・意見)しているかを読み取ることができる。そして、読み取りで獲得した筆者の書きぶりを参考に、感じたこと(感想・意見)を伝えるために必要な根拠が、絵のどこに当たるのか(事実)が分かるようにおすすめの絵の評論文を書くことができる。

◆単元の展開 (全 11 時間)

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
<p>課題の発見(朝の会)</p> <p>美術館の学芸員さんから名画の評論文を書いて欲しいという依頼を受ける。</p>	<p>○美術館に展示してもらえるのは、うれしいな。 ○みなさんに興味をもってもらえる文章を書きたいな。 ○お気に入りの絵が見つかったよ。どうやって書いたら絵の魅力が伝わるのかな。</p> <p>美術館に評論文を展示したいという意欲をもつ。</p>	<p>■ (事前の取組) 学級文庫等に美術に関する図書を置き、自由に手に取ることができるようにしておく。 ■ (事前の取組) 美術館の学芸員さんと連携し、美術館の名画複製品の貸出や評論文の展示の許可を得ておく。</p> <p>【図画工作】 名画の鑑賞の学習で学んだことを想起させる。</p>
<p>美術館に名画評論文を展示する『おもしろい絵を見てくだ祭』を開催しよう</p>		
<p>課題の設定(2)</p> <p>自分がおすすめしたい名画の評論文を書く。</p> <p>教師が書いた評論文と自分の文章を比較する。</p>	<p>○評論文ってどのように書けばよいのかな。 ○何から書けばよいか分からないよ。 ○いざ、書くとなると難しいな。</p> <p>書くことの難しさを感じ、評論文の書き方について学びたいという思いをもつ。</p> <p>○呼びかけなどの工夫があるから読んでいてわくわくするな。 ○絵のどの部分を見ているかがよく分かるように書いた方がよいな。 ○絵をおすすめしたいという強い気持ちが伝わってくるよ。 ○絵から分かることだけでなく描いた人のことも想像しているな。</p> <p>よい評論文へのイメージがもて、自分の評論文を書き直してよりよくなりたいという気持ちが湧いてくる。</p>	<p>■ 魅力のある評論文の書き方を学びたいという意欲をもたせるために、学ぶ前段階で評論文を書く活動を設定する。</p> <p>■ 評論文のモデルのイメージがもてるように教師が書いた評論文を提示する。</p> <p>■ 評論文とは、どのような文章なのかを全体で確認し、共通認識をもたせる。</p>

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
<p>教師が高畑さんの文章を参考にしたことを知り、教材文・絵巻物と出会う。学習計画を立てる。</p>	<p>○高畑さんは、ジブリ映画の監督だから、絵から物語を想像するのが上手だな。 ○高畑さんの文章の書きぶりを参考にしたらプロのような文章が書けるようになるよ。 ○高畑さんが絵のどこを見ているか、どんな言葉で評価しているかを学びたいな。 ○高畑さんは、この絵巻物の何に魅力を感じたのか友達と話し合いたいな。 ○高畑さんは、この評論文を書くことで何を伝えたいのかな。 ○図画工作科で学習した昔の日本の美術作品とも似ているところがあるのかな。</p> <p>自分の評論文を魅力あるものにするために、高畑さんの文章から学びたいという気持ちが高まる。</p>	<p>■教師が評論文を書く際に教材文を参考にしたことを示し、教材文を読む必然性がもてるようにする。</p> <p>【図画工作】 「味わってみよう日本の美術」で絵巻物を鑑賞した学習を想起させる。</p> <p>■「筆者の主張」、「絵の着眼点」、「感想・評価」、「表現の工夫」など、学ぶ観点を整理し、児童と共に学習計画を立てる。</p>
情報の収集(5)		
<p>『「鳥獣戯画」を読む』で述べられている筆者の主張を読む。</p>	<p>○筆者の主張は、9段落目に書いてあると思う。 ○「国宝であるだけでなく、人類の宝」って書いてあるよ。 ○どうして、人類の宝なのだろう。 ○大昔に漫画やアニメにつながるモダンな絵巻物が描かれたすばらしさを伝えたいのだと思うよ。 ○描いた人が何物にもとらわれない、自由な心をもっていたことのすばらしさを伝えたいのかな。 ○八百五十年、祖先たちが大切に保存していたから人類の宝なのだと思うよ。</p> <p>筆者の主張の意味を話し合うことで、筆者のものの見方や考え方を理解しようとしている。</p>	<p>■筆者が絵巻物の魅力をどのように捉えているか、叙述をもとに読み取り、交流し合うことで意味を深める。</p> <p>■筆者は自分の主張（鳥獣戯画のすばらしさ）を伝えるために、様々な工夫をしていることに気付かせる。</p>
<p>筆者の絵の着眼点と感想や評価を結び付けて読む。</p>	<p>○墨一色の線がびのびとしている様子を想像しているよ。線から想像を広げているね。 ○大きさがちがうはずの兎と蛙に着目して、漫画みたいだと感想を言っているね。どんな想像をしたかが読み手に分かるように伝えているよ。 ○線や表情、筆さばきなどから想像を広げていることが分かったよ。 ○筆者の主張につながる具体がたくさん書かれているね。</p> <p>絵のどこに着目して想像すればよいかを理解し、自分のおすすめる名画を見る視点に取り入れようとしている。</p>	<p>■「絵」「着眼点」「感想・評価の言葉」といった観点を示すことで、筆者が何に着目し想像を広げているかが捉えられるようにする。</p>
<p>筆者の主張の説得力を高める工夫を読む。</p>	<p>○「はっけよい、のこった」と会話文から始まっているね。実況中継みたいで相撲をしている様子が想像できるよ。 ○絵巻物をページに分けているよ。パラパラ漫画みたいに動きを感じる工夫だね。 ○筆者は、アニメーション監督だからアニメや漫画と結び付けて伝えられたのだと思うよ。 ○絵から分かることだけでなく、絵巻が描かれた時代背景のことも伝えているよ。大昔だからこそ漫画のような描き方の価値が今よりも高いと思うよ。まさに人類の宝だね。 ○社会で室町の文化を学んだ時、戯画化されたものについても学習したね。</p> <p>筆者の主張の説得力を高めるための表現や構成の工夫を見付け、筆者のものの見方や考え方から自分のものの見方を広げている。</p>	<p>■筆者の表現の工夫を付箋に書き出し、共通点や相違点をまとめていく。その際、手法とその効果を整理できるように観点を示しておく。</p> <p>【社会】 今に伝わる室町の文化と人々のくらしについて学習したことを想起する。</p> <p>■社会科での学びを掲示しておくことで、昔の文化が今に伝わっていることの価値を感じられるようにする。</p> <p>■筆者の主張と表現や構成の工夫を結びつけて考えられるように、板書に主張を残す。</p>

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
整理・分析(1)		
<p>おすすめの名画から伝わる魅力を付箋に書き出す。</p>	<p>○この絵からは、・・・という雰囲気や伝わるな。 ○描いた人は、きっと・・・な人なのかな。 ○この人の表情は、・・・と知っている表情に見えるよ。 ○色がきれいで、元気な気持ちになるよ。 ○この線からは、勢いが感じられるよ。</p> <p>―― 筆者の主張や評価からイメージを広げ、おすすめの名画から伝わる魅力を考えている。</p>	<p>■名画から感じた魅力を付箋に書き出す。「筆者の主張」「着眼点」「感想・評価の言葉」を参考に自分がおすすめる絵の魅力を考えられるようにする。</p>
<p>おすすめの名画の魅力を付箋に書き足し、自分の評論文に活用するものを整理する。</p>	<p>○高畑さんの書き出しみたいに想像が広がる言葉から始めたいな。私の絵だと・・・で始めてみようかな。 ○やっぱりこの絵の魅力は、・・・だと思うよ。この魅力を伝えるためには、この付箋とこの付箋のことを詳しく書いた方がよいね。 ○学芸員さんは絵画をどんなふうに見ているのかな。絵画の見方を聞いてみたいな。</p> <p>―― 自分の考えを整理し、自分ならではの見方を生かした評論文を書き上げたいという気持ちが高まる。</p>	<p>■自分の一番伝えたい主張を明確にし、その主張と結びつく付箋を根拠とする。付箋を並び直すことで、構成メモを作成する。</p>
まとめ・創造・表現(2)		
<p>おすすめの名画の評論文を書き上げる。</p>	<p>○付箋に整理できているから書けるよ。 ○書きながら、絵を見ている人への呼びかけも入れてみよう。 ○私の主張が伝わる文章になっているか友達に読んでもらおう。</p> <p>―― 付箋に整理してきたことを基に、考えを再構築しながら評論文を書き上げている。</p>	<p>■自分の付箋(構成メモ)、教材文、教師の評論文等を参考にしておすすめの名画評論文を仕上げていく。必要に応じて、友達同士相談し合う。</p>
実行		
美術館に名画評論文を展示！『おもしろい絵を見てくだ祭』の開催！		
<p>―― 実際に自分の評論文への感想や反応をもらうことで、伝える喜びや達成感を味わう。</p>		
振り返り(1)		
<p>単元での学習を振り返り、付いた力や自分の学びを確かめる。</p>	<p>○最初の評論文と比べると、自分が伝えたい絵のすばらしさを具体的に分かりやすく書くことができたよ。 ○絵から想像を広げる力が付いたから、図工の鑑賞や音楽の鑑賞でも生かしていきたいな。</p> <p>―― 自己の学びを捉え、今後の学びに活用しようとしている。</p>	<p>■「おもしろい絵を見てくだ祭」コーナーを作ってもらい、絵と評論文をセットで展示してもらおう。</p> <p>■自分の学びをメタ認知させるために、育成する力に対する振り返りを行うと共に、自己の学びや今後への意欲を言語化させる。</p>

【児童生徒の変容】

評論文を書くことに困難さを感じていた児童が、美術館に評論文を展示するという目的に向けて、教材文から「筆者の主張」、「絵の着眼点」、「感想・評価」、「表現の工夫」等の視点をもって評論文の書き方を学ぶことでおすすめの名画に対するものの見方や考え方が広がり、評論文の書きぶりや変容した。パフォーマンス評価で行った絵の評論文では、初めて見た絵の事実から評価・感想を考え、評論文を完成させた。これは、国語科における読む力・書く力が身に付いているとともに本校で育成すべき資質・能力の【表現力】が高まっている姿だと捉えている。

また、美術館に評論文を展示するという目的に向けて、友達と相談し合い、友達の見方や考え方を理解したり、自分の見方や考え方を広げたりしている。これは、本校で育成すべき資質・能力の【協調性・柔軟性】を育成している過程の姿だと捉えている。また、友達と学び合うことで課題の解決につながったという経験から、今後の学習でも他者と共に学び合いたいという思いや身に付けた表現力を図画工作科や音楽の鑑賞で活用したいという学びに対する意欲の高まりが見られた。

国語

第6学年

育成を目指す資質・能力

【論理的思考力・判断力・表現力】【知識・技能】
【協働する力】

単元名

盛りあが(阿賀)ろう！実現！原っ子のまちづくり

～プレゼンで地域に発信！原っ子の考える未来のまち「ふるさと阿賀」～

【単元の概要】

総合的な学習の時間の取組「盛りあが(阿賀)ろう！実現！原っ子のまちづくり」をきっかけに、まちづくりについて興味・関心を持ち、自分達が住む阿賀地区の未来のまちの姿について考えをまとめ、構成を工夫したり資料を活用したりして、説得力のあるプレゼンテーションを作成していきます。

学習指導要領における領域・内容

A 話すこと・聞くこと
C 読むこと ウ


他教科等との関連

総合的な学習の時間、社会、算数

◆単元の目標

- ・ 提案内容が明確に伝わるよう、事実と感想、意見とを区別したり、必要な文言や数値などを引用、図解したものを提示したりするなど構成を工夫し、場に応じた適切な話し方で話すことができる。
- ・ まちづくりに係るプレゼンテーションのスライドを作るという目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨を把握し、自分の考えを明確にしながらか読むことができる。

◆単元の展開（全13時間）

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
<p>課題の発見（単元前）</p> <p>昨年度のまちづくりイベントについて語り合う。</p> <p>昨年度のまちづくりイベントを開催した中学校1年生や参加者のまちづくりに対する思いを調べる。</p> 	<p>【総合的な学習の時間】</p> <p>○去年の6年生のまちづくりイベントは楽しかったね。ほくたちもやってみたいな。 ○なぜ、イベントをしたんだろう。</p> <p>「昨年度のまちづくりのイベントをきっかけに、まちづくりに興味・関心をもつ。」</p> <p>○自分達も先輩の「よりよいまちにしたい」という思いを引き継ぎ、地域の人々の思いを受けて阿賀のまちづくりに関わっていききたいな。 ○国語の教科書に「まちづくり」のことが書いてある説明文があったよ。</p> <p>「自分達にできるまちづくりを考える中で、地域の人々の思いや、昨年度のまちづくりイベントのよさや課題を知り、自分達もバージョンアップしたまちづくりイベントを開催して「まち」を盛り上げたいという思いを抱く。」</p>	<p>■昨年度のまちづくりイベントの開催時の写真や動画、新聞記事等を見せて想起させる。</p> <p>■昨年度のまちづくりイベントを開催した中学校1年生へのインタビューや、イベント参加者のアンケートから、自分達のまちづくりに対する思いをふくらませるようにする。</p>
<p>情報の収集（2）</p> <p>まちづくりの考え方を学ぶという目的意識をもって教材を読む。</p>	<p>○「町の幸福論」に述べられているまちづくりの考え方は、参考になるね。 ○筆者の伝えたいことは二つあるんじゃないかな。 ○まちづくりで重要なことは、「地域の住民が主体的に取り組むこと」、「未来のまちのイメージをもつこと」だよな。 ○「バックキャスト」の考え方を使得、私達も阿賀のまちづくりについて考えてみよう。</p> <p>「筆者の考え方を理解するとともに、自分達の目指すまちやまちづくりについて考えを深めている。」</p>	<p>【社会】社会科で学んだ身近な地域や市について調査する学習活動を想起させる。</p> <p>【総合的な学習の時間】収集した情報を整理・分析した後、阿賀のまちの未来の姿をイメージし、自分達にできることを考える。 「昨年度のまちづくりイベントをバージョンアップしたイベントにしよう」という課題を設定する。</p> 

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
<p style="text-align: center;">課題の設定 (1)</p>		
<p>自分達の考えるまちづくりについて、イベント参加者に伝える表現方法を考える。</p>	<p>○自分達の考える阿賀のまちの未来の姿について、参加する方に伝えたいね。どんな方法で伝えようか。</p> <p>○大事な言葉を効果的に伝えたいね。数値は、一目で分かるようにグラフで表したいな。</p> <p>○「AGAi」の皆さんが見せてくださったプレゼンテーションがいいんじゃない？</p> <p>○でも、どうやって作ればいいのか。何かヒントになるものはないかな。</p> <p>○国語の教科書「町の幸福論」にあるプレゼンテーションの作り方が参考になりそうだね。</p> <p>――</p> <p>プレゼンテーションで「自分達の考える未来のまちの姿」と「今やろうとしていること(提案)」について伝えるという課題を設定している。</p>	<p>■表現方法を絞る際、まちづくりイベントの中で伝えるという条件を示す。</p> <p>■教科書に掲載されているプレゼンテーションの例を教師が実際に行い、学習のゴールイメージがもてるようにする。</p> <p>【総合的な学習の時間】プレゼンテーション作成に必要な情報を収集する。</p>
<p style="text-align: center;">私たちの考えるまちづくりについてプレゼンテーションで伝えよう！</p>		
<p style="text-align: center;">情報の収集 整理・分析 (4)</p>		
<p>プレゼンテーションを作成するという目的意識をもって再度教材文を読む。</p>	<p>○筆者の文章をプレゼンテーションのスライドにしたら…。</p> <p>○全部で何枚のスライドにしたらよいか。</p> <p>○スライドにするためには、大事な言葉を使って短くまとめないとイケないね。</p> <p>――</p> <p>プレゼンテーションの構成をスライドにまとめる方法について理解している。</p>	<p>■プレゼンテーションの作り方を学ぶために、教材文でプレゼンテーションのスライドを作るという目的に応じて、筆者の考えを文章の構成に沿って整理させる。</p>
<p>自分たちが考える未来のまちの姿やまちづくりについて、プレゼンテーションの構成を考える。</p> 	<p>○自分たちの考える未来のまちの姿やまちづくりについて地域の人に納得してもらえるように、筋が通る流れにしたいね。</p> <p>○まちの課題とその原因、解決方法の三つが繋がっていた方が分かりやすいね。</p> <p>○地域の人を私達のプレゼンテーションに引き付けるには、どんな構成にするといいかな。</p> <p>――</p> <p>目的や相手を意識して、自分の考えがよく伝わる表現になるよう、どんな工夫ができるか考えている。</p>	<p>■これまでに学習した説得力のある意見文の構成について想起させる。</p> <p>■「接続詞の分類表」を提示し、接続詞を補いながら、スライドの項目のつながりを考えさせる。</p> <p>■協働し思考が深められるよう、思考ツールの「短冊」を使って、項目を並べ替えさせる。</p>
<p>学級で一本のプレゼンテーションにまとめるため、より説得力のある構成について話し合う。</p> 	<p>○まちの人達にインタビューして分かった「活気があるまちにしたい」という願いを入れようかな。(効果)</p> <p>○教科書にあった「バックキャスト」のような流れにしてはどうか。(つながり)</p> <p>○先に未来のまちの姿を述べて、最後にもう一度述べる双括型にすると、伝えたいことがより強調されていいんじゃないかな。(順序)</p> <p>○最初は聞き手にインパクトがある方がよいから、まちのよさよりまちの課題から入るとよいのではないかな。(効果)</p> <p>○スライドとスライドのつながりはどのようにつけたらいいのだろう。</p> <p>○「未来のまちの姿」、「現状」、「課題」、「原因」、「解決方法」、「事例」、「提案」という構成に決めよう。</p> <p>――</p> <p>プレゼンテーションの構成について複数の観点から分析している。</p>	<p>■学級で一本のプレゼンテーションにまとめるという目的を明確にすることで、グループで助言し合って改善するという活動に必然性をもたせる。</p> <p>■各グループで考えた構成を「①順序②効果③つながり」という観点で、異グループ間で話し合わせる。</p> <p>■一人一人が話し合いに参加できるように、ジグソー的な学習形態を工夫する。</p> <p>■他のグループからの助言を受け、グループごとに構成等について再検討させる。</p>

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
<p style="text-align: center;">まとめ・創造・表現 (4)</p> <p>発表原稿を書き、プレゼンテーションの資料を基に、助言し合いながら発表練習を行う。</p>  <p>プレゼンテーションの資料や発表原稿の修正を行う。</p>	<p style="text-align: center;">←</p> <p>○解決方法の部分なんだけど、意見の根拠が分かりにくいよ。事実を基にするといいね。 ○総合的な学習の時間で調べた数値や写真も入れると説得力があるね。 ○まちづくり推進協議会の〇〇さんの言葉も引用するといいね。 ○課題と解決方法がうまくつながるためには、課題の原因と解決方法が合っていないといけないね。 ○相手の反応も確かめながら、間をあけて話そう。</p> <p>学級で決めたプレゼンテーションをよりよいものにしていこうという意欲をもって練習を行っている。</p> <p>○資料をもう一度見直してみると、数値が分かりにくかったよ。それで、地域の方の行事への参加状況を円グラフに入れたよ。 ○写真にキャプションを付けて、出典を明らかにしたよ。説得力が増したね。</p> <p>アドバイスの内容を基に、資料や発表原稿をよりよいものに修正している。</p>	<p>【総合的な学習の時間】必要な情報を収集し、パソコンを使ってスライドを作成する。</p>  <p>■原則1人1スライドを担当させ、個々の児童に役割をもたせる。 ■助言は「①順序②効果③つながり」の3観点に基づいて行うよう指示する。</p> <p>【総合的な学習の時間】「AGA in」の方から、発表についてのアドバイスを受ける。</p> <p>【算数】算数科における表とグラフを作成する学習活動を想起させる。</p> <p>■アドバイスを基に、客観的な視点で修正ができるようにする。</p>
<p style="text-align: center;">実行 (1)</p> <p>まちづくりイベントの冒頭でプレゼンテーションを行い、自分達の考えるまちづくりについて発信する。</p> 	<p>○プレゼンテーションをうなずきながら一生懸命聞いてくださっている方がいらっしゃって、とてもうれしかった。 ○参加者に伝わるように、間を開けたり強調したりして話せたよ。 ○まちのよさや課題を理解し、ほくたちの考えるまちづくりに賛同してくれる人が増えればいいな。</p> <p>相手の反応を確かめながら自分の考えを明確に伝えられたことについて達成感をもっている。</p>	<p>【総合的な学習の時間】まちづくりイベントを実行する。</p> <p>■まちづくりイベントで、児童の考えるまちづくりについて発信する場を設定する。</p> 
<p style="text-align: center;">振り返り (1)</p> <p>単元の学びを振り返るとともに、今後に生かしていきたいことを考える。</p>	<p>○自分達の考えるまちづくりについて地域の方に納得してもらえたことができたね。プレゼンテーションをしてよかったね。 ○プレゼンテーションの力は、他の場面でも何かを説明するときに役立つな。</p> <p>視覚的に分かりやすく伝えることができるプレゼンテーションのよさ、表現や構成を工夫して話すことを今後も生かしていこうとする。</p>	<p>■「論理的思考力・判断力・表現力」「協働する力」の視点により、振り返りを書かせる。</p>

【児童生徒の変容】

年度当初、発表等で自分の考えを分かりやすく伝えている児童は、学級の約半数程度であった。本単元のプレゼンテーションの構成を考える学習においても、「どのような内容を取り上げるか」、「どのような順序で話すか」に対し、考えをもちにくい児童が相当数見られた。そこで、思考過程を視覚化するため思考ツールである短冊を活用したり、事実・感想・意見を区別したりした結果、どの児童も自分なりの構成が考えられるようになり、最終的に学級でまとめたプレゼンテーションは、構成の効果も考え、説得力のあるものに仕上がった。また、異なる意見を受け入れながら自分の意見を伝えることに課題が見られた児童も、「自分の考えが一番よいと思っていたけど、友達のプレゼンの構成を聞くと心が動きました。しっかりと考えを伝え合い、折り合いをつけながらまとめていくことは大切だと思いました。」と、振り返りに記述することができた。このような学習を積み重ねる中で、「論理的思考力・判断力・表現力」、「協働する力」が高まったと考える。

国語

第6学年

育成を目指す資質・能力 【思考力・判断力・表現力】

単元名

投書で発信！自分の思いを伝えたい！ 「新聞の投書を読み比べよう」

【単元の概要】

地域の防災行事へのスタッフ募集の依頼を受け、自分たちが地域から頼られているという喜びや地域の取組を広く伝えたいという思いを抱きます。その思いを伝える方法として投書に出合わせ、その書き方を教科書や地域の投稿経験者、新聞社の方から学び、自分の意見を説得の工夫を取り入れて書くという単元のねらいを身に付けていきます。

学習指導要領における領域・内容

B書くこと ウ

C読むこと イ

他教科等との関連

総合的な学習の時間

◆単元の目標

新聞の投書の特徴や書き方について収集した情報を基に、四つの投書を構成や理由付けの仕方、根拠の挙げ方について比較したり関係付けたりしながら読み比べることで、自分の意見に説得力をもたせるための説得の工夫はどの手法が効果的かを考え、理由や根拠を明確にして自分の意見を書く力を育てる。

◆単元の展開（全12時間）

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
<p>課題の設定①（1）</p> <p>地域の防災の取組について、どのような方法で紹介するとよいか話し合う。</p> <p>投書を書くというゴールに向かう学習計画を立てる。</p>	<p>○総合的な学習の時間で取り組んだ防災キャンプについて、もっとたくさんの人に紹介したいな。</p> <p>○各地でいろいろな災害が起きている今、地域の活動や地域の人々の防災に対する思いをたくさんの人に伝えたいな。</p> <p>○たくさんの人に伝えるためにはどのような方法が効果的かな。</p> <p>○新聞の投書はどうか。新聞に載ればたくさんの人が読むから、ぼくたちの伝えたいことが広く伝わるね。</p> <p>『投書という表現方法を使って伝えたいという思いになってくる。』</p> <p>○書こう書こう！でも、投書ってどうやって書くのかな。</p> <p>○自分の考えを書くということは分かるけど、それだけで伝わるかな。</p> <p>○まず、書き方についての学習が必要だ。教科書に投書の学習が載っていたよ。</p> <p>○読み手に防災活動の大切さを伝えるためには、どんな工夫ができるかな。</p> <p>○地域の人で投書欄に載った人はいないかな。そういえば、去年の6年生は新聞社の出前授業をしていたよ。</p> <p>『投書を書くためには、どんなことを、どのような方法をもとにして学ぶことが考えられるか、課題解決に向けた意識が高まってくる。』</p>	<p>【総合的な学習の時間】地域の防災キャンプが自校で開催されることを知り、自分たちもスタッフとして協力したことやその中で知った、地域の人々の防災に対する思いを想起させる。</p> <p>■投書については、様々な年齢層やテーマ、また複数の新聞社のものを紹介する。</p> <p>■ある投書に対して書いた投書などつながりのあるものも掲示し、投書のもつ魅力や効力についても紹介しておく。</p> <p>■実際に複数の新聞の投書を比べて読み、書き方の工夫について気付いたことを話し合うことを通して、投書を書きたいという意欲と自分たちの知識・技能とのズレを感じ、投書の書き方を知るといふ本単元の学びの必要性に気付かせる。</p>
<p>投書で発信！自分の思いを伝えよう！</p>		
<p>読み手を説得するために投書の書き方を身に付けよう！</p>		

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
情報の収集①（２）		
<p>教材文「新聞の投書を読み比べよう」の四つの投書を読み比べ、それぞれの書き手の意見や主張とその理由や根拠を捉える。</p>	<p>○どの投書も同じ段落構成だけど、理由や根拠がちがっているね。</p>	<p>■四つの投書を読み比べ、4人の書き手が、読み手を説得するために理由付けの仕方や根拠の挙げ方を工夫していることに気付かせる。</p> <p>■教科書の投書の拡大コピーに、段落ごとに色分けをして囲むことで、視覚的に四つの投書の文章構成が同じであることに気付かせる。</p>
<p>投書を読み、それぞれの書き手が読み手を説得するために工夫していることを読み取る。</p>	<p>○どの投書も読み手を説得する工夫があっっておもしろいな。ぼくの意見を伝えるためには、四つの工夫のうち、どれを使えば、説得力が増すのかな。</p>	
	<p>説得の工夫について知り、それぞれに特徴があり、どの手法を使って投書を書くのかという課題への意識が高まってくる。</p>	
整理・分析①，振り返り①（３）		
<p>読み手を説得するために、効果的な理由や根拠を考えて投書の構成メモを書き、グループで意見交換する。</p>	<p>○私は防災キャンプの取組のよさを伝えるために、自主防災組織の会長さんの言葉を引用しようと思っていました。でも友達と意見交流してみると、実際に自分が防災キャンプで経験したことを書く方が説得力が増すように思えてきました。</p>	<p>■説得力を増す投書にするために書いた構成メモについて、他者との意見交換することを通して、自分の意見を広げたり、説得の工夫について多面的・多角的に見て自分の考えを深めたりすることができるようにする。</p> <p>■新聞の投書欄は不特定多数が読むものであり、さまざまな説得のための表現の工夫を駆使して文章をつくり上げない限り読み手を説得することはできないことを児童に投げかける。</p>
<p>修正した構成メモを基に投書を書く。</p>	<p>作品や友達との対話を通して、自分の学びの深まりを実感できるようになり、投書を書くという思いがさらに高まってくる。</p>	
<p>書いた投書を推敲する。</p>	<p>○私の投書が新聞に載ったら、自分の意見をたくさんの方に伝えることができるね。新聞社の方はどんな書き方をした投書に説得力を感じたのかを聞きたいな。 ○実際に新聞に載っている投書の説得の工夫はどんなものがあるのかなあ。新聞社の方に話を聞きたいな。</p>	
課題の設定②（１）		
<p>ゲストティーチャー（新聞社の投書担当であった地域の方）の話を聞き、現時点の投書を見直す際の留意点について考える。</p>	<p>○いろいろな人の意見を聞くことは、大事だね。 ○いろいろな経験を通じて、12歳のぼくたちから見た防災をどう書いていくかをしっかり考えるぞ。 ○投書に書く内容は、説得の工夫を取り入れて書くことはもちろん、それを踏まえて自分の意見を書く、つまり、自分はどうか考えるかを書くことが大切なんだね。</p>	<p>■新聞社の投書担当であった地域の方に、投稿された作品を選ぶ際のエピソード等を語っていただくことを通して、現時点の投書の内容では掲載される可能性は低いことを伝えてもらう。</p> <p>■自分の意見をより明確にし、説得力のある理由や根拠が必要であることを確認する。</p>
	<p>自分の投書を見直して、新聞に掲載されるように書き直したいという意欲が高まってくる。</p>	
<p>自分の意見をより明確にして、説得力のある理由や根拠を挙げて、投書を書き直そう。</p>		

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
情報の収集②, 整理・分析② (2)		
<p>投書を書く際のポイントや留意点に関わる情報を収集する。</p> <p>自分の主張と文章構成を考え、説得の工夫を取り入れて下書きを書いた後、原稿用紙に清書する。</p>	<p>○地域の防災の取組についての自分の考えを、根拠を明確にしてまとめよう。</p> <p>○読み手を説得するために、ほくは、地域の自主防災組織の会長さんの言葉を引用するから、総合的な学習の時間でインタビューした内容を要約して取り入れるよ。</p>	<p>■自分の投書の内容と読み取った説得の工夫をつなげさせる。</p> <p>【総合的な学習の時間】防災活動の学習の際に、地域の方にインタビューした内容を想起させる。</p>
まとめ・創造・表現 (2)		
<p>書いた投書を読み合い、助言を受け、投書を仕上げる。</p>	<p>○読み手を説得するために、防災キャンプに参加した経験だけでなく、そこに参加した地域の方々にインタビューした内容を入れてみたらどうかというアドバイスを基に書き直したよ。</p> <p>○学習の初めに書いた投書と比べてみると、地域の防災の取組のよさや工夫について自分の思いが伝わる投書になったよ。</p> <p>○みんなはどんな投書を書いているのかな。早く読んでみたいな。</p> <p>友達の投書を読んだり、友達とアドバイスをし合ったりすることを通して、説得の工夫を取り入れ、自分の意見としての投書に書くというねらいの達成を実感できるようになってくる。</p>	<p>■各自の投書を、期間を定めて教室内に掲示し、国語の時間だけでなく、朝の会や休憩時間等を活用し、気付きを書いた付箋を貼ることができるようにしておく。付箋に記名させることにより、個人的に詳しくアドバイスを聞きに行くことができるようにする。</p> <p>■友達と投書を読み合い、気付いたことや考えたことを交流する場面を設定する。</p>
振り返り② (1)		
<p>本単元の学びを振り返り、自己の学び方や資質・能力の変容、またこの学びをこれからどのようにつなげていくかを考える。</p>	<p>○この学習を通して、読み比べて学んだ説得の工夫を使って、自分の考えを明確にしながら、投書を書きたい、地域の防災の取組について自分の思いを伝えたいという気持ちをもち続けることができました。</p> <p>○私は今まで投書を読んだことがなかったけれど、効果的な説得の工夫を取り入れながら、自分の意見を投書にしてまとめることができ、とてもうれしいです。</p> <p>○どうやったら読み手を説得できるか、効果的な表現の工夫についてグループで積極的に自分の意見を出し合い、考えを深めることが心に残っています。この学びを他の場面や他の教科の学びにつなげたいです。</p> <p>本単元の学びを通して、どのような変容が見られたかを実感するとともに、この学びを国語科だけでなく他教科や生活にどのように活かしていくかを考え続けようとしている。</p>	<p>■投書を書くという学びを通しての自分の考え方の広がりや深まりなどの変容を交流し、振り返りにつなげることができるようにする。</p> <p>■自分の学びの広がりや深まりをメタ認知させるため、本単元で育成したい資質・能力の【思考力・判断力・表現力】と主体的・対話的な学びの2つの側面から単元での学びを振り返ることができるようにする。</p>

【児童生徒の変容】

児童は、新聞の投書やコラムを読む経験が少なく、投書を書くためにはどうしたらよいか具体的にイメージできなかったが、四つの投書を比べて読み、共通点や相違点を考えることを通して、読み手を説得するための工夫について整理し、その工夫を活用して、全員が投書を書くことができた。また、ゲストティーチャーの話聞くことで、新たな課題が生まれ、地域の防災の取組を投書で広く伝えたいという学習のゴールに向かい、情報収集や交流場面で主体的・対話的な学びを実現させることができた。単元を通して学んだことを基に、根拠を明確にしながら自分の思いをまとめたり、友達の投書に対して助言をしたりする姿から、育成すべき資質・能力の「思考力・判断力・表現力」が高まったと捉えている。

国語

第5学年

育成を目指す資質・能力

【主体性】【思考力】【自己理解】

単元名

海田町に息づく「世界人『織田幹雄』」を紹介しよう

教材文「手塚治虫」

【単元の概要】

日本人初の金メダリスト「織田幹雄」は、海田町出身で、その功績は今も町に息づいています。児童は、国語の学習を通して、織田幹雄について書かれた複数の資料を読み、織田幹雄の生き方や考え方について学びます。その中で、織田幹雄の陸上競技の発展に寄与した競技者としての生き方だけでなく、人種や国籍を問わない「世界人」としての生き方に触れ、自分たちのものの見方や考え方を深めていきます。多くの人に織田幹雄の生き方や考え方を紹介することを目的に、構成を考え工夫してリーフレットを作成し、町内の公共施設等に配布します。

学習指導要領における領域・内容

B書くこと イ

C読むこと オ カ

他教科等との関連

道徳の時間

◆単元の目標

主体的に本や複数の資料を選んで比べて読み、織田幹雄の生き方や考え方について考え、友達との交流を通して自分の考えを広げたり深めたりする。また、織田幹雄を多くの人に紹介するリーフレットを作成することで、読み手の関心を喚起させ、織田幹雄の生き方や考え方を効果的に伝えるための見出しや全体の構成の効果について考える。

◆単元の展開（全16時間）

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
課題の設定（2）		
海田町出身の「織田幹雄」について知っていることを出し合う。	<p>○道徳でも学習したね。海田町出身日本人初の金メダリストだよ。</p> <p>○学校の掲揚台の高さは、三段跳の記録だね。その他は知っているようで知らないな…</p> <p>「織田幹雄について知っているようで意外に知らないことに気が始める。」</p>	<p>【道徳の時間】事前に自作資料「強いものは美しい—日本人初の金メダリスト 織田幹雄—」【価値項目1—（2）】の学習を行い、織田幹雄の思いに共感させておく。</p> <p>■（事前の取組）昨年度の学習の成果物を展示している「ふるさと館」を見学し、本単元における学習に興味をもたせておく。</p> <p>■昨年度の成果物に対する来館者のアンケート結果を紹介する。</p> <p>■昨年度の展示パネルとそれ以外の方法であるリーフレット等の長所と短所を考えさせ、展示パネルの短所を補うことができる方法を選ばせる。</p>
昨年度の展示パネルを見た人のアンケート結果を知る。その中で、「織田幹雄の生き方とか考え方についてよく知ることができた」人が全員ではないという事実を知る。	<p>○多くの人が、展示パネルを見て、織田幹雄について知ることができていた！さすが、6年生だ。</p> <p>○ちょっと待って、あんなに詳しく紹介文を書いているのに、全員が「よく知ることができた」と回答してくれていないのはなぜだろう。</p> <p>「昨年度の学習では、大きな成果があった一方で課題もあることに気が始める。」</p>	
「先輩たちの学習を引き継ぎ、『織田幹雄』をさらに多くの人に紹介する」という課題を設定する。	<p>○「ふるさと館」で展示するという方法では、限られた人にしか知らせることができないね。読む時間も限られてしまうし…</p> <p>○僕たちは、先輩とは違う方法で織田幹雄を紹介したいね。</p> <p>○何度も読み返すことができ、多くの人に配布できるリーフレットがいいね。</p>	
先輩の学習を引き継ぎ、海田町出身の織田幹雄について紹介しよう。		
	<p>「先輩達の学習を引き継ぎながら、織田幹雄の生き方や考え方を紹介したいという気持ちが高まってくる。」</p>	
課題の解決に向けた方策について話し合い、人物を紹介するために必要な観点や学習計画について考え、学習の見通しを立てる。	<p>○陸上選手として活躍するために、どんな練習をしたのだろう。まずは、実績だけでなく、練習の仕方についても資料から調べて伝えたいね。</p> <p>○リーフレットの中に年表も入れたいね。年表を入れたいけど、どうやって年表を作ったらいいのだろう。</p> <p>○リーフレットの構成や見出しも考えたいね。</p> <p>「複数の資料を読み、織田幹雄の生き方や考え方について考えたいという意欲が高まってくる。」</p>	<p>■教材文を基に、人物を紹介するために必要な観点は、人物のあゆみ、生き方に大きく影響を与えた出来事、効果的な表現方法であることを説明する。</p> <p>■単元で付けたい力である「学びのモニタリング」の視点を考えさせ、ゴールの見通しをもたせる。</p>

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
情報の収集 (3)		
<p>共通教材として教材文「手塚治虫」を活用し、文章を読んで、年表を作成する方法について考える。</p>	<p>○人との出会いや戦争などの出来事も人物の生き方に大きく影響を与えているので年表に入れるといいね。 ○年表にするには、資料に書かれていることを短い言葉でまとめる必要があるね。 ○この方法で、織田幹雄の年表も作ることができそうだ。</p>	<p>■短冊に「時」と「出来事」を記入させる。そして、短冊を並び替えながら、グループで年表を完成させる。 ■完成した年表を、いくつかの時期に分けさせ、その時期をどのような言葉で表すことができるか考えさせる。</p>
<p>織田幹雄に関する複数の資料を読み、必要な情報を取捨選択し、あゆみを年表にまとめる。</p>	<p>教材文で付けた読みの力を、織田幹雄についての読みに活用して、課題解決しようとする意識が高まっている。</p>	
	<p>○多くの大会に出場して記録を出しているね。大会名と種目、記録を年表に入れよう。 ○指導者として、世界の人たちにどんな影響を与えたのかな。 ○織田幹雄の「世界人」とは、どんな人をさすんだろう。もっと資料を読んで、織田幹雄の考え方を知りたいな。</p> <p>人との出会い等との出来事と関連付けながら、織田幹雄の生き方や考え方を捉え始めている。</p>	<p>■年表を基に、それぞれの出来事を関連付けながら、織田幹雄の生き方をいくつかの時代に分けさせる。 ■織田幹雄の生き方や考え方を共有しながら考えさせるために、児童全員で作成した年表を教室に掲示する。 ■選手引退後の情報が不足していることに気付かせ、並行読書などで得た指導者としての情報などは、随時年表に追記していく。</p>
整理・分析 (5)		
<p>共通教材である教材文「手塚治虫」を基に、人物の生き方や考え方をまとめる際に、どのような点に着目して読めばよいか知る。</p>	<p>○人との出会いとその結果とを関係付けて読むと、人物の生き方について深く考えることができるね。 ○困難な出来事や挫折をどのように乗り越えるかに着目して読むと、より人物の考え方が分かるね。</p>	<p>■出来事や人との出会い、人物が大切にしてきたことを関連付けながら、人物の生き方や考え方について考えればよいことに気付かせる。</p>
<p>共通教材である教材文「手塚治虫」を通して学んだことや年表、複数の織田幹雄の資料を基にして、織田幹雄の生き方や考え方について考える。</p>	<p>出来事を関連付けながら、人物の生き方や考え方を多面的に捉えることが大切であることに気が始めている。</p> <p>○「精進」の言葉は、指導する人がいない中、少ない道具で練習を工夫し努力し続けてきた織田幹雄の生き方を表しているね。 ○多くの人との出会いが陸上への道につながったから、人との出会いを大切にしていた人だろうね。 ○心の強さ、精神力の強さ、何事にも挑戦し続けるという意味が「強いものは美しい」に込められているね。私はどうだろう…</p>	<p>■年表に挙げられている事実を伝えるだけでは不十分であることに気付かせ、目的意識を明確にさせる。 ■思考ツールの「お魚ボーン図」に、「陸上との関わり」「人との出会い」「困難や挫折」の視点で出来事を記入し、それらの出来事を関連付けながら生き方や考え方を考えさせる。</p>
<p>織田幹雄の生き方や考え方について、紹介文を書く。(下書き)</p>	<p>織田幹雄の生き方や考え方を自分の経験と関連付けながら、多面的に考え始めている。</p> <p>○観察眼を生かして、多くの人々に指導し、記録を伸ばした出来事を入れよう。 ○国という枠組を超えた「世界人」としての生き方を、エピソードを交え知ってほしいな。 ○読んでもらう人に興味をもってもらうためには、見出しも工夫した方がいいね。</p> <p>織田幹雄の生き方や考え方に対する考えがまとまり、広がりや深まりが生まれてきている。</p>	<p>■「構成表」を使い、紹介したい事柄を整理した後に、紹介文の下書きを行うようにさせる。 ■読み手の関心を喚起させるためには、見出しや書き出しの工夫が必要であることにも気付かせる。</p>
まとめ・創造・表現 (4)		
<p>織田幹雄の研究者からの手紙を基に、リーフレットに書く紹介文を見直す。</p>	<p>○今の紹介文だと多くの事実だけが書かれていて、生き方や考え方で伝えたいことが分りにくいよ。心の動きも伝える表現を工夫しながら文章を書くといいね。 ○織田幹雄の生き方だけでなく、自分を振り返ってどのようなことを学んだかを伝えることが大切だね。 ○多くの努力では、どんな努力をしたのか伝わらないね。具体的に例を挙げて、努力の結果まで紹介しないとダメだね。</p>	<p>■事前に児童の紹介文の下書きを織田幹雄の研究者に読んでいただき、よりよい紹介文にするための評価を受ける。研究者と連携し、評価の内容を指導者が手紙にしたものを児童に伝える。</p>

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
<p>再度資料を読み直し、必要な情報を収集し、紹介文の文章を加筆修正する。</p> <p>見出しや紙面の構成を考えながら、紹介リーフレットを仕上げる。</p>	<p>○「世界人」だけでなく、「人間的な弱さ」も紹介すると、織田幹雄のさらなる魅力が伝わると思う。もう一度その視点で資料を読んでみよう。</p> <p>○心の動きが分かるような表現を入れるための表現を加えよう。</p> <p>「多面的に織田幹雄の生き方や考え方を捉え、自分との関わりの中で考えている。」</p> <p>○これまでのリーフレットづくりでの割り付けの仕方等の学習が活かせるね。</p> <p>○3回オリンピックに出場したことが分かるように、年表にも色を付けて工夫しよう。</p> <p>○織田幹雄の生き方が詰まった「努力の結晶」という見出しにすると、読む人が興味をもってくれるかな。</p> <p>○当時の練習の様子が分かる写真を表紙に使うと、今の様子と違うことも分かるね。</p> <p>「相手意識を明確にして、織田幹雄の紹介リーフレットを仕上げ、実行への意欲を高める。」</p>	<p>■手紙の内容にある「事実を正確に書いているか」、「生き方や考え方を多面的に伝えているか」という評価の視点に基づいて推敲させる。</p> <p>【国語】「リーフレットで報告しよう、ぼくたち・わたしたちの『凧子大作戦!』」の学習を想起させ、リーフレットの割り付けを工夫したりキャッチフレーズを付けたりして特徴を表し、全員の言語活動を充実させる。</p>
実行（※授業時数に含めない）		
<p>各自が作成したリーフレットを町内の公共施設やイベント等で配布する。</p>	<p>○リーフレットを作るのに苦労したけど、織田幹雄について多くの人に知ってもらえてよかったな。</p> <p>○公共施設の人たちも、海田町出身の織田幹雄のリーフレットを配布できることを、とても喜んでくれていたな。</p> <p>「実行したことへの達成感もちながら、本単元の学びを振り返り始めている。」</p>	<p>■公共施設の設置を事前に連携し、児童に対し感想や評価などをいただくようお願いしておく。</p>
振り返り（2）		
<p>完成したリーフレットの交流を行う。</p>	<p>○織田幹雄は、歌舞伎や推理小説も跳躍へ結び付けるほど陸上に対して熱い思いがある人だったね。</p> <p>○友達の作品を読むと、自分とは違う織田幹雄の生き方や考え方が発見できるよ。</p> <p>○紹介する出来事が同じでも、織田幹雄から学んだことはそれぞれ違っているね。</p> <p>「学んだことを紹介する楽しさや喜びに気付きながら、織田幹雄に対する見方を深めている。」</p>	<p>■作品を読み合い、友達の作品の工夫を見付け、作品の評価を付箋に記入させる。</p>
<p>自らの学びを振り返る「学びのモニタリング」を行う。</p>	<p>○多くの資料を読んだり考えたりすることは簡単なことではなかったけど、みんなで何度も考えたことはとても楽しかったね。</p> <p>○織田幹雄のように、自分を信じて何事にも挑戦していきたいな。</p> <p>○「海田町に息づく」とは、海田町に住んでいるぼく達が学習をして、自分の生き方に取り入れていくことなんだね。</p> <p>○これからも、色々な方法で織田幹雄のことを紹介していきたいな。</p> <p>「自らの学びや学び方を振り返りながら、伝える価値や楽しさに気付き、より深く自己を見つめようとしている。」</p>	<p>■作品、公共施設の方や友達からの評価、ノートなどを基に本単元の学習を振り返らせる。</p> <p>■課題の設定の時に立てた「学びのモニタリング」の視点で、育成したい資質・能力である【主体性】【思考力】【自己理解】や教科の力について自己評価を行わせる。また、学び方や成長したことや次への目標などについても振り返らせる。</p>



【児童生徒の変容】

児童は、多くの人に海田町出身の織田幹雄の偉大さを知ってもらいたいという願いをもち、複数の資料を読んでいく中で織田幹雄に対する思いを深めた。当初は、織田幹雄の生き方を陸上競技の勝者という一面からしか捉えていなかったが、人との出会いや挫折などの出来事と関連付け、織田幹雄の生き方や考え方を多面的に捉えた。リーフレットにまとめる中で、読み手を意識して見出しを工夫したり全体の構成の効果を考えたりして書くといった教科で付けた力が高まったと捉えている。育成したい資質・能力については、「織田幹雄は、多くの人に出会うことで陸上の世界に導かれました。人との出会いはお互いの人生に影響をあたえることが分かりました。わたしも人との出会いを大切にして成長していきたいです。そして、わたしに出会ってよかったと思ってもらえるような人になりたいです。」という振り返りに代表されるように、織田幹雄の生き方を多面的に捉え自分の経験を重ねて考えることで、より深く自己を見つめ、自己理解の力を高めることができた。

国語

第4学年

育成を目指す資質・能力

【知識・情報活用能力】【協働性】【自己肯定感】

単元名

神楽紹介リーフレットを作ろう

教材文「アップとルーズで伝える」

【単元の概要】

児童は、神楽に携わる地域の方からの依頼をきっかけに、神楽の魅力を多くの人に伝えたいという意欲をもちます。写真と文章で分かりやすく説明できるものとしてリーフレットを素材に選び、教材文を通して、伝えたいことの内容を明らかにすること、写真と文章の対応など説明の仕方の工夫を学びます。それらを生かして、神楽の魅力を紹介するリーフレットを作成します。

学習指導要領における領域・内容

B 書くこと ウ
C 読むこと イ

他教科等との関連

道徳の時間

◆単元の目標

写真と文章を対応させながら段落相互の関係や中心となる語や文を捉え、段落相互の関係を考えながら読むことができるとともに、相手と目的に応じて材料を選び、書こうとすることの中心を明確にし、写真と文章を関連させながら書くことができる力を身に付ける。

◆単元の展開（全15時間）

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
<p>課題の設定（1）</p> <p>地域の方からの「東京公演で、神楽のことをよく知らない人に神楽の魅力を紹介するものを作ってほしい」という依頼を受け、伝えたい魅力について話し合う。</p> <p>神楽の魅力をどのような方法で伝えるか考え、教材文の学習と結び付くことに気付く。</p> <p>学習計画を立てる。</p>	<p>○美土里の神楽を東京で紹介するんだって。 ○どんなものを作って配ったらいいかな。 ○私は、衣装や早変わりのことを伝えたいな。 ○立ち合いの場面やオロチの登場も迫力があるよね。 ○道徳の時間に会長さんの話を聞いて、神楽に対する熱い思いが伝わってきたね。神楽の魅力をたくさんの人に知ってもらいたいね。</p> <p>「依頼をきっかけに、神楽には様々な魅力があることを改めて感じる。」</p> <p>○神楽のことをよく知らない人だったら、神楽ってこういうものだっていう全体の説明があるよね。 ○写真と説明で伝えたらいいよ。 ○配るんだったら、ちらしやパンフレットがいいかな。 ○リーフレットなら、パンフレットよりページが少ないよ。初めて知る人に伝えるには、あまりページが多くない方がいいよ。</p> <p>「条件に合う素材としてリーフレットを選び、ゴールとなる作成物のイメージをもつ。」</p> <p>○リーフレットには、アップで撮った写真や遠くから撮った写真などが使われているね。 ○アップという言葉が教科書にのっていたよ。 ○アップとルーズの写真をどういうふうに使ったらいいのかな。 ○『アップとルーズで伝える』で勉強したことがリーフレットに使えるね。</p> <p>「教科書教材を使って学習する意味を実感する。」</p> <p>○「アップとルーズで伝える」でリーフレットに使える説明の仕方の工夫を見付けたいな。 ○神楽の魅力を調べたり写真を集めたりしよう。</p> <p>「今後への見通しをもつ。」</p>	<p>【道徳の時間】 神楽を題材とした資料（「神楽の里で」）を扱い、ゲストティーチャーの神楽協議会会長に、伝統芸能「神楽」に対する思いを聞く機会をもつ。</p> <p>■神楽協議会会長からのビデオレターという形で、児童に依頼を提示する。</p> <p>■神楽の全体の写真と部分の写真を提示する。 ■事前に集めたリーフレットを教室に配置しておき、「写真」「文章」「手に取りやすい」といった条件を満たすものとして児童が自ら選択し、作成物のイメージをもてるようにする。 ■ちらし等も例示できるようにしておき、文字による情報量の違い等に目を向けさせる。</p> <p>■複数のリーフレットを比較させながら、写真の提示の仕方に目を向けさせる。</p> <p>■ゴールに向けてどのような活動が必要か、児童自身が考えることにより、学習を創っていく意識をもたせるとともに、相手意識や目的意識を明確にさせる。</p>

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
情報の収集（４）		
<p>教材「アップとルーズで伝える」から筆者の説明の工夫を読み取る。</p>	<p>○写真と文章を使って、「アップ」と「ルーズ」の対比がはっきり分かるようにしているんだな。</p> <p>○それぞれの段落の内容や役割を考えると、段落と段落がつながり合って文章ができていくことが分かってきたよ。</p> <p>○カーブの優勝を伝える新聞でも、選手の喜びを伝えるときは選手の表情のアップを使い、観客の喜びを伝えるときは、観客席全体のルーズの写真を使っていたね。</p> <p>○伝えたい内容に合わせてアップかルーズかを選択することが大事なんだね。</p> <p>○写真について、文章でくわしく説明するという工夫は、リーフレット作りに使えそうだな。</p> <p>リーフレットを作成するという目的に向かって、進んでリーフレット作りに生かせる筆者の工夫を読み取っている。</p>	<p>■写真と文章の関係に注意し、段落相互の関係を考えながら筆者が伝えたいことを読み取らせる。</p>
整理・分析（１）		
<p>筆者の説明の工夫の蓄積を基に、リーフレットに生かしたいことを「とらの巻」にまとめる。</p>	<p>○教材文や本物のリーフレットから見付けた「分かりやすく説明するための技」をまとめよう。</p> <p>○リーフレットを作るときに、チェックリストにもなるね。</p> <p>○伝えたい内容に合わせて「アップ」と「ルーズ」の写真を選ぶことは絶対いるね。</p> <p>○写真と対応させた文章を書くことが大事だよ。</p> <p>○具体的な例をあげると、読む人が分かりやすいんだね。</p> <p>○問いかけや呼びかけも、うまく使いたいね。</p> <p>見付けた技の中から選択して、自分が作成するリーフレットに生かしていこうという意欲を高めている。</p>	<p>■分かりやすく説明するための技をまとめておくことで、作成の際にチェックリストになったり、他教科や他単元の学習にも生かせたりすることを意識させる。</p>
情報の収集（３）		
<p>リーフレットにのせたい内容を決め、取材する。取材したことを取材カードにまとめる。構成と伝えたい内容を考えながら、アップとルーズの写真を選択する。</p>	<p>○安芸高田の神楽の特徴って何だろう。</p> <p>○協議会の会長さんに神楽資料館を案内してもらったり、インタビューさせてもらったりしたので、伝えたい魅力の情報がもっとくわしくなったよ。</p> <p>○神楽のことをよく知らない人に、神楽ってこういうものだというのを伝えるには、アップよりルーズの写真で、神楽の雰囲気传达了方がいいね。</p> <p>○私は、地域の神楽団の人に小道具の話を聞いてきたよ。小道具を持って舞っているルーズの写真と、その小道具のアップの写真を使ったら、魅力が伝わりやすくなるね。</p> <p>インタビューをしたり、神楽が紹介された本を利用したりしながら、課題に対する意欲を継続させ、粘り強く情報収集している。</p>	<p>■必要な情報を求めて試行錯誤する時間を確保することで、自分の欲しい情報がない場合にどうすればよいのか、一つの情報だけを抽出してよいのか等を判断する力を養う。</p> <p>■伝えたい内容が同一の児童同士による情報交換の場を設定することで、必要感の高い交流の場の価値を実感させる。また、自分とは異なる内容を選んだ児童とも適宜交流することを通して、必然的に友達にとって必要な情報についてのアンテナも高くなる。自分が情報を得るだけでなく、情報を提供することの意義を自然と感じさせることで、協働的な学びにつなげる。</p> <p>■神楽に関わる事前アンケート（「神楽を観たことがあるか」「神楽に興味があるか」等）を通して把握した実態を基に、情報収集に関わる支援を行う。</p>

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
整理・分析（２）		
<p>文章の組み立て表を活用しながら全体の構成を考える。</p>	<p>○組み立て表に情報を整理することで、書きたいことの中心がはっきりしてきたよ。 ○アップとルーズの写真を効果的に使って、分かりやすいリーフレットにしたいな。 ○使う写真を迷っていたけど、友達がアドバイスをしてくれたので、内容に合わせて決めることができたよ。 ○衣装の意味やかっこよさを伝えるためにはどんな構成にしたらいいかな。</p>	<p>■ワークシート（組み立て表）に自分の書きたい情報を整理していくことで、伝えたい内容の中心を明確にすること、書く順序を吟味すること、その内容と写真が対応しているかどうか等を吟味することにつなげさせる。 ■「相手に伝えることで自分の考えを整理したり見直したりする」「相手に助言する」など、学び合いの目的を明確にすることで、なぜ学び合うのかという目的を自覚しながら児童が活動を進めていけるようにし、学び合いの効果を発揮させる。</p>
<p>説明の工夫を生かしながらリーフレットを作成する。作成したリーフレットを友達と読み合い、文章の間違いを修正したり、よりよい表現に書き直したりする。</p>	<p>目的に応じて、書きたいことの中心をはっきりさせることで、より分かりやすい文章になることを実感している。</p> <p>○「とらの巻」にまとめた説明の技を振り返りながら書いたので、勉強したことが生かされたよ。 ○A君は、写真と伝えたいことを対応させながら書いているな。</p>	<p>■国語科としての指導事項が定着するよう、リーフレット作成の目的や記述の内容、表現の工夫について十分に理解させる。</p>
<p>説明の工夫を生かしながらリーフレットを作成する。作成したリーフレットを友達と読み合い、文章の間違いを修正したり、よりよい表現に書き直したりする。</p>	<p>「神楽の魅力をもっと多くの人に分かりやすく伝えたい」という思いが高まる。</p>	
まとめ・創造・表現（３）		
<p>神楽協議会や、商工観光課の方に見ていただき、助言を受けることを通して、よりよいリーフレットになるよう加筆・修正を行う。</p>	<p>○リーフレットを手にとってもらうためには表紙や裏表紙の工夫も大切だね。おすすめの衣装を表紙にかいてアピールしたいな。 ○商工観光課で見せてもらったリーフレットみたいに、裏表紙に安芸高田市の地図や神楽門前湯治村の住所を入れたらどうかな。 ○美土里小学校の住所や電話を書いておいたら、リーフレットを読んだ人の感想が届くかもしれないね。</p>	<p>■いただいた助言を基に、その課題を改善するためにはどうしたらよいか考えることで、「実行」の場面をより実生活につなげていく。 ■（実行）作成したリーフレットを「あきたかた神楽東京公演」で配布していただく。</p>
	<p>「より質を高めるためには、外部の方をはじめ、様々な視点からの助言をいただくことの大切さに気付く。」</p>	
振り返り（１）		
<p>単元で身に付けた力や発揮した資質・能力について振り返る。</p>	<p>○教科書で勉強したことを生かして、書きたいことの中心をはっきりさせながら書く力がついたよ。 ○説明の仕方を工夫して、文章と写真を対応させて書くことができた。これからも、この力を使っていきたい。 ○自分達のリーフレットで、神楽の魅力が東京の人に伝えられてうれしい。</p>	<p>■東京公演での配布の様子を画像で見せたり、関係者の評価を伝えたりすることで、自己有用感をもたせる。 ■本単元で身に付けた力や、資質・能力の発揮を自覚しやすくなるため、【知識・情報活用能力】、【協働性】、【自己肯定感】の3つの視点から学びを振り返らせる。</p>
	<p>「自分の学びを自覚し、地域の方のために役に立つことができた自分自身に気付く。」</p>	

【児童生徒の変容】

地域の伝統芸能である神楽の継承に力を尽くしている方からの依頼に応じてリーフレットを作成し、それを東京公演という大きな場で配布していただくという活動を通して、児童は、神楽の魅力伝えるための一端を担うことができたという実感をもつことができた。それは、「自分達の力が地域の方の役に立ってうれしい」、「これからもっと美土里の神楽の魅力伝える方法を考えていきたい」といった単元の振り返りカードの記述からも、既有経験や知識・情報を活用する力、友達と協力しながら課題の解決に向かう力、自己肯定感の高まりがうかがえる。

また、リーフレットの作成というゴールの課題が明確であり、書くために読む、書くために聞く、書くために話し合うというように、単元全体の課題となる言語活動と、本時の学習活動の一つ一つが結び付くように単元を構成することで、何のために教科書で学習するのかという必然性が生まれ、意欲の向上、継続につながっていた。この単元の前に、総合的な学習の時間に書いた新聞と比較しても、目的に応じて写真や書く材料を選び、伝えたいことの中心をはっきりさせて、段落構成を意識しながら、書く力の向上が見られる。

国語

第5学年

育成を目指す資質・能力

【思考力・表現力】【自分への自信】

単元名

児童会に“あいさつ向上計画”を提案しよう。

話す・聞く 意見と理由を聞き取ろう

【単元の概要】

単元の導入では、児童会からの依頼を受けたあいさつ向上に関する話し合いを行います。その中で、児童は聞き取る力に問題があることを発見し、問題の解決方法を考え、教科書で学習を進めます。単元の最後は、もう一度、児童会からの依頼を受けた話し合いをして、自分の聞き取る力の変容を確かめ、実際に児童会にあいさつ向上計画を提案します。

学習指導要領における領域・内容

A 話すこと・聞くこと エ オ

他教科等との関連

特別活動（児童会活動）

◆単元の目標

意見と理由を区別して聞き取り、複数の人の発言の共通点を見付けて整理することに意欲的に取り組もうとする。話し手の意図を捉えながら聞き、複数の人の発言の意見と理由の共通点や相違点を聞き取ることを通して、文や文章にはいろいろな構成があることを理解し、話の聞き方について自分の成長を自覚し、自信をもつことができる。

◆単元の展開（全5時間）

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
課題の設定（1）		
依頼された話題で話し合う。	<p>○あいさつをする人とならない人がいるね。代表委員会で児童会から話があったそうだよ。</p> <p>○6年生の力になってあげたいけど、僕たちの話し合いは色々な意見が出て、まとまらないね。何を提案したらいいんだろう。</p> <p>（実生活の話題で話し合うことに対して意欲を高めているが、うまくいかないと感じている。）</p>	<p>【特別活動】児童会でのあいさつ運動を想起させる。</p> <p>■（事前の取組）児童会から全校のあいさつを向上させるための方法を5年生に提案してもらうよう、5年生の学級代表を通じて依頼してもらっておく。</p> <p>■事前に話し合いの実態調査としてアンケート調査を行っておき、話し合いがうまくいかないと思っている児童の割合やその理由等を把握しておく。</p> <p>■授業中に、児童から話し合いの問題点が出にくい場合は、事前アンケートの結果を提示し、日頃の話し合いでうまくいかない点を想起させた上で、問題点を発見させる。</p> <p>■「聞き方の問題を解決する方法は何かありますか。」という発問では、教師が意図している調査方法に関する回答は児童から得られにくい場合がある。そのため、「聞き方のテクニックやコツについて調べるにはどのような方法がありますか。」と発問することで、調査方法に関する回答を得やすくなると考えられる。</p> <p>■単元末に再度話し合いを行うことを確認し、学習の見直しをもたせる。</p>
話し合いでうまくいかなかった点とその原因を考える。	<p>○話し合いの中で、意見を言いたくなくなって決めたいことがなかなか決まらなかったり、同時に違う意見を言ったりして困ることが多いよ。</p> <p>○言い終わっていないのに自分の意見を言う人がいたり、つながらない意見を言う人もいたりするよね。</p> <p>○アンケート結果をみると、どうやら、僕たちの話し合いがうまくいかない原因は話の聞き方に問題があるみたいだね。</p> <p>（実際に話し合いをして、話し合いがうまくいかない原因を考えることで、話の聞き方についての問題意識を明確にもち始めている。）</p>	
事前のアンケート結果と関連付け、聞き方に問題があることに気付く。	<p>○話の聞き方のコツってどんなのだろう。</p> <p>○調べる方法は、本や教科書、インターネット、上級生に聞くなど色々あるね。</p> <p>○みんなで調べるときは教科書を使おう。</p> <p>（話の聞き方のコツを調べるために、多様な方法を挙げ、その中から教科書を使った解決方法を全員の共通手段としている。）</p>	
どんな聞き方をすればいいのだろうという問いをもち、聞き方について調べる方法を考える。		
話の聞き方を身に付け、あいさつ向上計画の提案をしよう。		

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
情報の収集、整理・分析（２）		
教科書 P43（東京書籍）を読み、意見と理由を聞き分けながらメモを書く手法を知る。	<p>○話し合いを上手に進めるためには、その人の意見だけでなく、理由にも目を向けて聞くことが大切なんだな。</p> <p>○メモを書くときは、意見と理由を分けてメモすると分かりやすくなるね。</p>	<p>■最初に教科書 P43 を音読させ、学習内容の大体を把握させおき、そのあとで、教科書を伏せて実際に教師の範読を聞きながら、メモを書くという流れで学習の見通しをもたせる。</p>
教科書 P43 の教師の範読を聞き、意見と理由を聞き分けながらメモを書く。	<p>生活上の問題を解決するために教科書の内容を読み、聞き方の手法を理解しようとしている。</p>	<p>■手のひらサイズの付箋紙を配付し、意見と理由を区別しながらメモを書くよう伝える。このことで、共通点を見付ける学習につながる。</p>
教科書 P44 を読み、意見や理由の共通点を見つけて見出しを立てる手法を知る。	<p>○話す人によっては、理由を先に話す人がいるから、実際に聞き取りをしてみると、意見と理由をきちんと区別して聞いてメモを書くのは難しいな。</p> <p>○3人の人の理由を比べると共通点が見えてきたよ。今度から意見が上手にまとめられそうだな。</p>	<p>■メモを書いた後、教科書を開いて教科書の事例で答え合わせをさせることで、二つのメモを比較する必然性を生じさせ、できるだけ短い言葉で要点のみメモを書くことの大切さに気付かせる。</p>
教科書 P44 を参考にして共通点を見つけて見出しを立て、グループで交流する。	<p>教科書の事例を基に聞き取りを行ってみることで、自信をもち始めている。また、単元末の話し合いに期待をもち始めている。</p>	<p>■聞き手だけでなく、話し手も意見と理由を明確にして話していることに気付かせ、話すときも意見と理由を意識して話すことが大切であることに気付かせる。</p>
まとめた中から新しい案（意見）を創造する。	<p>○共通点に目を付けて意見をまとめて、その後に見出しを立てるのは難しいときもあるね。</p> <p>○でも、色々な意見や理由の共通点を見つけて見出しを立てていくと、実際の話し合いのときには、上手に意見をまとめていくことができそうだよ。</p>	<p>■最初に教科書 P44 を音読させ、学習内容の大体を把握させおき、そのあとで、教科書を伏せてメモを見比べながら共通点を考え、見出しを立てるという流れで学習の見通しをもたせる。</p>
	<p>共通点を基に見出しを立てる手法が、実際の話し合いで意見を収束させる手段として生かせることを認識し始めている。</p>	<p>■共通点が見付かった付箋紙を1ヶ所にまとめて見出しを立てたり、付箋紙が不足した場合はノートにメモ書きをして見出しを立てたりするよう伝える。</p>
	<p>○自分が立てた見出しとは違う人がいたよ。人によっていろいろな共通点のまとめ方や見出しの立て方があるんだな。</p> <p>○友達が発表した見出しの中にも、さらに共通点を見付けることもできたよ。こうやってまとめていくといいのかな。</p>	<p>■個人でまとめたものを持ち寄ってグループで交流させることで、共通点のまとめ方や見出しの立て方が多様であることに気付かせる。</p>
	<p>考え方の違いを認め合い、多様なまとめ方があることに気付いている。</p>	<p>■グループで交流した共通点や立てた見出しを発表させ、それらのよさやおもしろさを発表させることで、互いの違いや多様な考えを認め合い、建設的に話し合うことのよさを実感させる。</p>
	<p>○「音読」と「音楽劇」の共通点は、どちらも「音」なので、これをまとめると、例えば、お年寄りとの交流会では「音楽を取り入れた音読劇」をしたら、どうか。</p> <p>○共通点でまとめていく話し合いをすれば、みんなの意見が大切にされるから、みんなが納得できるんだな。</p> <p>○この方法を実際の話し合いで使って、児童会にいい提案をしたいな。</p>	<p>■話し合いの過程で新しい案（意見）を創造させることで、意見をまとめたり収束させたりする話し合いの楽しさを感じさせる。</p>
	<p>まとめた中から新しい案（意見）を創造し、実際の話し合いでも生かそうという意欲を高めている。</p>	<p>■意見を収束させる手法は教科書には記載されていないが、実際の話し合いでは重要な過程であるため、ここで指導しておく。</p>
		<p>【特別活動】学級会や日常生活での話し合いにも生かせることに気付かせる。</p>

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
まとめ・表現（１）		
<p>教科書 P256, 257 を書く。その後、共通点を見付けて見出しを立てる。</p> <p>教科書 P256, 257 の事例を基に、実際に話し合いを行う。</p>	<p>○前よりは、意見と理由を区別してメモできるようになった。 ○共通点でまとめたり内容に合った見出しを立てたりするのが難しいので、これからの目標にしたい。</p> <p>（以前と比べて話の聞き方が向上したと実感できているが、まだ意見と理由を区別して聞いたり、共通点を見つげたりすることに課題を意識している児童もいる。</p> <p>○みんなの意見をよく聞いて共通点を見つけて見出しをつくと、意見がまとまってくるのが分かった。 ○見出しを基にして新しい案（意見）を出し合うと、みんなの意見を生かした話し合いになることが分かった。</p> <p>（共通点を基に意見をまとめながら話し合いを収束させる手法について理解している。</p>	<p>■授業の導入で、単元のゴール（単元末の児童の依頼を受けた話し合い）を想起させてから、本時の主活動に向かわせる。</p> <p>■手のひらサイズの付箋紙を配付し、既習事項を活用（意見と理由を区別）しながらメモを書くよう伝える。</p> <p>■共通点が見つかった付箋紙を１ヶ所にまとめて見出しを立てたり、付箋紙が不足した場合はノートにメモ書きをして見出しを立てたりするよう伝える。</p> <p>■話し合いの過程で新しい案（意見）を創造させることで、意見をまとめたり収束させたりする話し合いの楽しさを感じさせる。</p> <p>■実際の話合いでは、話し合いを建設的に収束させるために、既習事項のように意見や理由の共通点に着目することを伝える。</p>
実行、振り返り（１）		
<p>既習事項を活用して、第１時と同じ話題で、再度、話し合う。</p> <p>自分の成長や学習の仕方を振り返る。</p>	<p>○意見と理由を聞き取ることができるようになったよ。 ○意見や理由の共通点を見つげながら話し合うことができたよ。 ○「劇であいさつのよさを伝える」という計画は、みんなの考えが生かしてるね。</p> <p>（学習前は、意見を反対し合うことが多く、なかなか意見がまとまらなかったが、学習後は、意見と理由を聞き取って共通点をまとめることで、互いの意見を尊重し、話し合いを収束させることができたよということを実感している。</p>	<p>■第１時と同じ話し合いを行わせ、自分の聞き方の問題が克服できていることや、意見や理由の共通点から新しい代案を創造できるようになったことを実感させる。</p> <p>【特別活動】児童会にあいさつ向上計画案を提案する。</p> <p>■授業の振り返りでは、話の聞き方に関する自分の成長や今後の課題等について、自己評価させて記述させる。</p>

【児童生徒の変容】

単元のはじめでは、話し合いで人の話を聞いたとき、意見と理由をメモしていた児童は全体の６％のみであり、９４％の児童が意見のみメモを書いていた。このことから、ほとんどの児童が意見と理由を意識して話を聞く力が十分身に付いていなかったことが分かる。しかし、単元内において、教科書の事例を参考に、実際の話合いを想定しながら人の話を聞き、意見と理由を付箋紙に書いたり共通点から見出しを立てたりする学習を行った結果、９８％の児童が意見と理由を適切に聞き取り、メモを書くことができた。また、複数の意見や理由の共通点を見出し、話し合いを収束させるための代案を考えることができた。以上の姿から、児童は話し手の意図を捉えながら聞き、複数の人の発言の意見と理由の共通点や相違点を聞き取る力を身に付けていることから、思考力・表現力が高まっていると捉えている。

さらに、単元末に行った“児童会のあいさつ向上計画”に向けた話し合いでは、前述の成果の他に、付箋紙がなくてもノートに自分なりに共通点をまとめる方法を創造した児童もおり、本単元で習得した聞く力を活用し、発展させていく児童の姿を見ることができた。このことは大きな成果である。

単元途中での振り返りでは「共通点でまとめれば、みんなが納得し、話し合いが成立すると思いました。」「今度は話し合いが上手にできそうだ。」と記述した児童が多くおり、学習の目的を明確にして学習していたことが分かる。このことで、単元末には１００％の児童が「意見と理由を区別して聞く力が付いた。」「話し合いで反対するだけでなく、新しい意見を出し合うようになった。」と記述していることから、自分への自信が高まっていると捉えている。

国語

第6学年

育成を目指す資質・能力

【実践的思考力】

単元名

筆者の考えに対する自分の考えを述べよう「時計の時間と心の時間」

【単元の概要】

本学習材において筆者は、『心の時間』を頭に入れて、『時計の時間』を道具として使うという、『時間』と付き合う「え」が必要だと主張しています。この主張に説得力をもたせるための、題名、事例の挙げ方、双括型の構成、かぎの使い分け等の書きぶりの工夫に着目しながら、読みの課題を解決し、読み方を創造していきます。

学習指導要領における領域・内容

C読むこと ウ

他教科等との関連

理科、特別活動

◆単元の目標

教材文から様々な読みの課題を設定し、その解決を目的に、事実と感想、意見などとの関係を捉えながら文章の内容を的確に読み取り、筆者の考えと比べながら自分の考えを明確にもつことができる。文や文章には色々な構成があることについて理解する。

◆単元の展開（全7時間）

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
情報の分析、課題の設定、情報の収集（1）		
日常生活と題名「笑うから楽しい」とのズレから、読みの課題を設定する。	<p>○ふだんは楽しいことがあるから笑うよね。この題名は、僕たちと反対のことを言っているよ。どうしてかな。</p> <p>○本文を読んでみようよ。そしたら納得できるかもね。</p> <p>自分の中にある概念とのズレから読みの課題を発見しながら読み進めている。</p>	<p>■「時計の時間と心の時間」を読む前に「笑うから楽しい」の説明文を扱うことを通して、読み方を学ぶ場を設ける。</p> <p>■課題設定のために、日常生活と題名とのズレから疑問を引き出す。</p> <p>■疑問を生じさせることで課題意識をもちやすくし、国語科のねらいに迫る課題発見へつなぐ。</p>
題名が「楽しいから笑う」ではないのは、なぜだろう。		
音読をし、筆者の考えに対する納得度をパーセンテージで表し、交流する。	<p>○納得度は60%。体の動きが心の動きに働きかけるって本当かな。</p> <p>○納得度は90%。友達と笑っている時に、何でもないことまで楽しく感じたことがあるから、筆者の言っていることが何となく分かるなあ。</p> <p>筆者の考えを知り、それに対する自分の考えを、経験と重ねて疑問をもちながら表現している。</p>	<p>■自分の考えの変容を自覚できるよう、最初の読みの段階で納得度をパーセンテージに表しておく。</p>
筆者が書いた文章の中で、一番大切な段落はどれか考え、選択し、主張を踏まえて、題名に込めた筆者の意図を探る。	<p>○筆者が一番言いたいことは何だろう。</p> <p>○これまでも大事な段落を探して筆者の考えを読みとってきたよね。</p> <p>○大事な段落を探してみようよ。</p> <p>○④段落。筆者がこの説明文で伝えたいことがまとめているから。</p> <p>○①段落。「体の動きと心の動きは密接に関係している」とはっきり言い切っているから。</p> <p>○「心の動きが体の動きに表れるのと同様に、心の動きも心の動きに働きかける」ということを意識して欲しいからこそ、題名にしかけをつくったのだと思う。</p>	<p>■主張、双括型の説明文であること、段落の役割を児童がつかんでいるか児童の発言により確認する。</p> <p>■これまでの「見立てる」や「生き物は円柱形」の学習を基に、筆者の主張が書いてある段落を探せよよいことに気付かせる。</p> <p>■主張と関連させ、題名に仕掛けをした筆者の意図についての考えを引き出す。</p>

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
整理・分析、まとめ（１）		
<p>事例の書きぶりから、筆者の説明の仕方の工夫に迫る。</p>	<p>○②段落は楽しい気持ちを引き起こす実験で、やってみると確かに納得できるね。 ○③段落は脳内の血液温度の変化について書いてあって、実感しにくいけど、頭をアイソノンで冷やすと気持ちよくなることと似ているのかな。</p>	<p>■事例の書きぶりに着目して、事例の役割や効果を確かめる。</p>
<p>納得度の変化とその理由を書き、交流する。</p>	<p>事例の書きぶりから、読者が納得しやすいように、実感しやすい事例と科学的根拠のある事例を挙げていることに気付き、双括型の説明文であることとも合わせて工夫について捉えている。</p>	<p>■納得度がどのように変容したか説明することを通して、思考がどのように変わったかを言語化させる。</p>
	<p>○納得度が120%上がった。筆者が最後に読者に語りかけている一文の意味が、事例と主張を結び付けて考えていくことでよく分かったから。このように、何を事例に挙げるかで、説得力のある説明ができるようになった。 ○事例の挙げ方で納得度が上がった。事例と主張のつながりが見えると説得力がある。 ○題名や事例に着目すると筆者の主張が見えてくるし、説得力も感じるようになった。次の学習に生かすことができるね。</p>	
	<p>学習材の内容だけでなく、他の学習材を読むときに生かせる視点や話したり書いたりするときにも生かせる視点に目が向いている。</p>	
情報の分析、課題の設定、情報の収集（１）		
<p>題名「時計の時間と心の時間」に着目したり、繰り返し返されている言葉を数えたりし、数の違いをきっかけに、読みの課題を設定する。</p>	<p>○筆者の言いたいことは、題名や事例に着目すればよかったね。まず、題名に着目して考えてみよう。 ○題名には「時計の時間」と「心の時間」という二つの時間が出てくるね。 ○本文には「時計の時間」が9回、「心の時間」が17回出てくるよ。 ○ということは、筆者は「心の時間」について読者に伝えたいんじゃないかな。 ○じゃあどうして、題名が「心の時間」じゃないの。 ○ただの「時間」が3回出てくるのも気になる。</p>	<p>■「笑うから楽しい」で学んだ読み方を活用して、筆者の言いたいことを学習材から読み取る読み方を習得させることを目指す。</p>
<p>筆者は「心の時間」の方が重要だと主張しているのかわかりかを考え、交流する。</p>	<p>○筆者は「心の時間」を特に読者に伝えたかったと思う。事例が四つあるけど、全て「心の時間」について書いてあるから。 ○賛成。それだけ事例を挙げなきゃ、読者は「心の時間」について理解できないかもしれないもんね。 ○でも筆者は、「時計の時間」も大切だって⑦段落で言ってるよ。しかも①と⑧段落に「二つの時間と共に生きている」と書いてるでしょ。だから、題名も「時計の時間」と「心の時間」の両方を使ってるんだよ。 ○そっか。でも、文中の「時計の時間」と「心の時間」には「」が付いているのに、何で題名には「」が付いていないの？</p>	<p>【理科】理科で用いられる「仮説を立てる」ということを国語でも生かし、仮説を立てながら、主張や文章構成に迫っていく。</p>
	<p>読んで気付いたことを交流する中で、自分の考えが深まったり違う視点にも目が向いたりし、課題を設定している。</p>	
<p>なぜ題名に「」が付いていないのだろう。</p>		

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
整理・分析, 情報の収集 (3)		
既習の読み方を基に見通しをもって、読み進める。	<ul style="list-style-type: none"> ○今後は事例に着目して考えてみようよ。 ○四つの事例に特徴があるから、それについて読み進めていきたい。事例が分かれば、主張がつかめるから。そうすれば題名に「」がついていることのヒントもつかめると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ■課題と向き合った時に、何をどのように考えていけば解決に向かうことができるのか思考する場を設け、見通しをもって学ぶことができるように促す。
本文中に出てくる四つの事例の中で、一番自分にぴったりのものを選び、交流することを通して、段落の役割を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> ○事例1。宿題をしている時とゲームをしている時に経験した。 ○事例2。朝起きたときと昼休憩とでは着替えにかかる時間が違うという経験をした。 ○事例4。友達と大縄跳びを跳ぶタイミングやテンポが違うという経験をした。 ○事例3の経験がない気がする。 ○四つの事例は全て一文目に特性が書いてあって、⑦段落につながってるよ。 ○四つの事例は、読者が「心の時間」に目を向けることができるように、説得力のある具体を示す役割をしていると思う。 ○四つの事例は、主張を捉える手がかりの役割をしていると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ■自分にぴったりの事例を選び交流することを通して、段落の役割の捉えを精緻化する。 ■自分の経験と事例を重ねることを通して、読みを深める。
筆者が題になぜ「」を付けたか、叙述を根拠に考える。	<p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">四つの事例の役割を捉え、主張とのつながりをつかんでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「時計の時間」と「心の時間」には「」がついているのに、題名についていないのは、「」を付けたこと、一つ一つの時間を強調して分けることになります。でも、筆者が主張しているように、「二つの時間と共に生きている」から、わざわざ「」を付けて別々のものにせず、題名にしているのだと思います。自分のペースで楽しむ「心の時間」も大切だけど、全体のことを考えると「時計の時間」が大切になります。両方の時間が大切だと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ■題名をきっかけに叙述を読み返し、筆者の主張をつかむ。 ■自分の日常生活でどのような「ちえ」の使い方をしたらよいか記述させる。そうすることで、読み取りの学びだけで終えず、自己の生き方に生かすことへとつなぐ。
筆者像をつかむことを通して、文章全体を統合的に読み深める。	<p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">題名について考えることで、「『心の時間』を頭に入れて『時計の時間』を道具として使うという、『時間』と付き合うちえ」に着目している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○筆者は時間という視点から、社会をよりよくしようと考えている人だと思う。なぜなら、みんなの「心の時間」を大切にするとともに、社会を成り立たせるために「時計の時間」も必要だという考え方をもってしているから。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【特別活動】筆者の考える「『時間』と付き合うちえ」について、特別活動（学級活動、学校行事等）や異学年と関わった際の経験等を想起させて考えさせる。</p> </div>
まとめ・表現, 実行, 振り返り (1)		
筆者の主張に対する自分の意見を表現する。	<ul style="list-style-type: none"> ○私は筆者の考えに100%納得。「時計の時間」を軸としながら「心の時間」に目を向けて生活することで、人間関係をよりよく築きながら生活を送ることができるから。これからは、自分で時間に対する意識を使い分けていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ■読み取ったことを教科書の中だけで終わらせず、筆者の考えに対する意見をもたせるとともに、自分の生活にどのように生かしていくのか表現させる。

【児童生徒の変容】

児童は、題名に着目して読み深めるという読み方で、筆者の主張に迫ることができた。また、多様な意見や解釈を出し合う中で、根拠を見付けたり自分の生活と置き換えたりしながら自分たちなりの答えを導き出す道筋を見いだそうとする姿が見られた。さらに、「時計の時間と心の時間」という文章に込められた筆者の考えを受け止め、自分の生活にどのように生かせばよいかという「時間と向き合うちえ」を具体化し実行しようとする児童の姿から、自己の生き方が深まったと捉えている。